



# 日本のETF市場の現状と 東証の取り組み

---

**Exchange & beyond**

株式会社 東京証券取引所

2022年6月7日

- 1 日本ETF市場の現状**
- 2 ETFの流動性供給に係る取り組み**
- 3 更なる発展に向けて**



# 1 日本のETF市場の現状

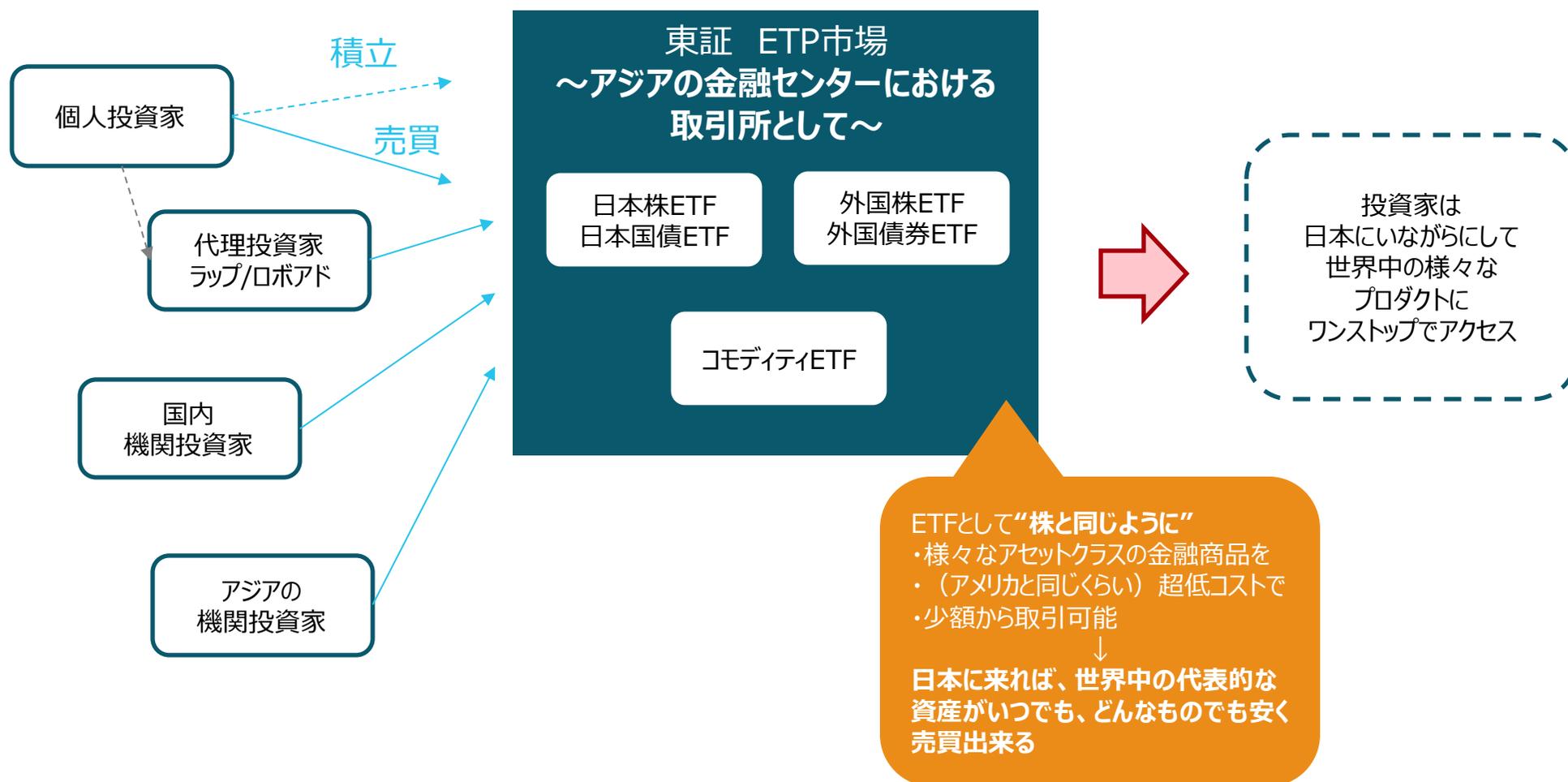
---



# アジアの金融センターとしての構想

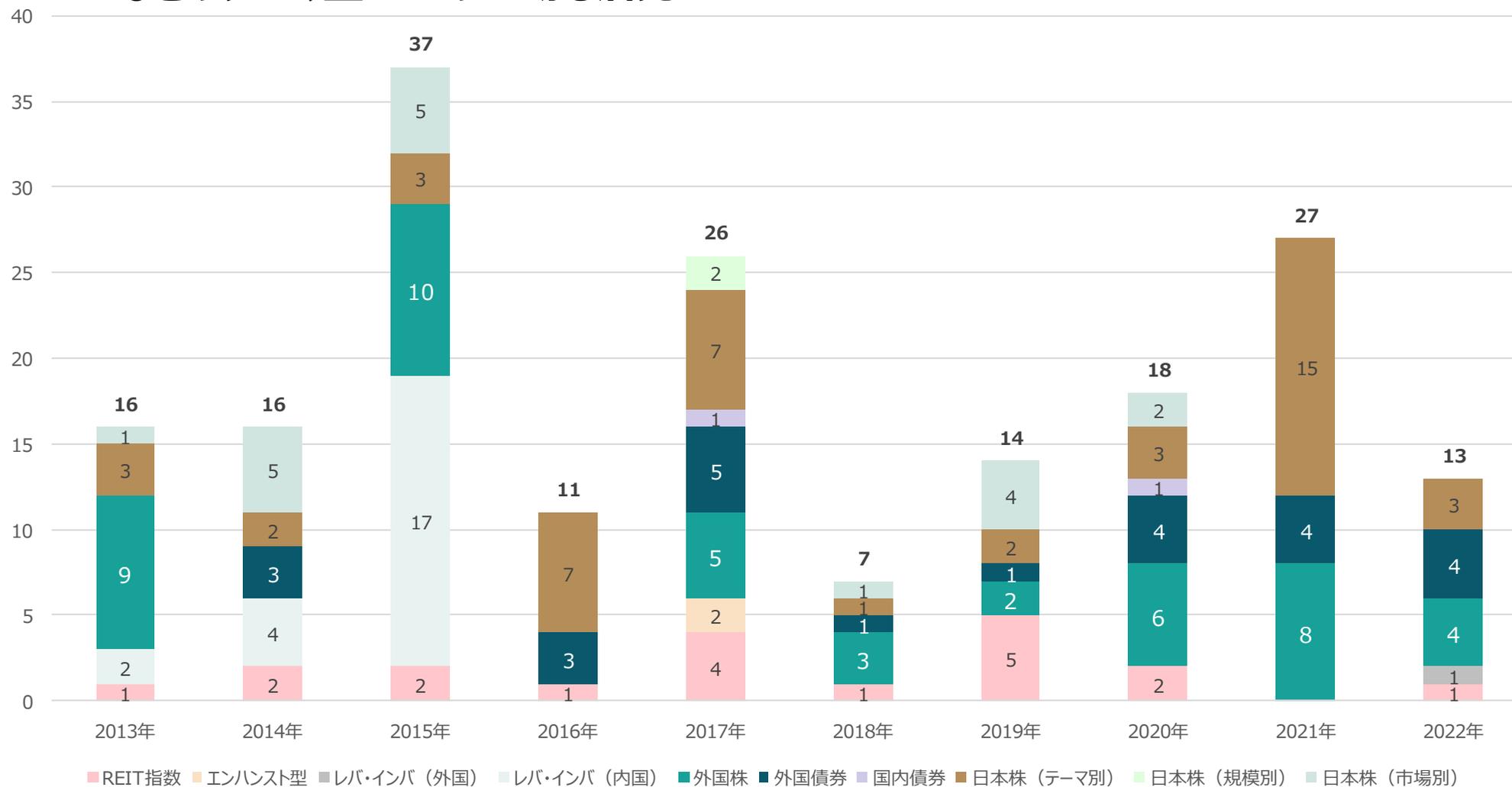
- 世界中の経済の動きにあわせて、日本だけでなく、海外の株式・債券・商品も、全て国内株式と同じように売買が出来る
- 商品だけでなく売買や決済面での利便性も兼ね備えた市場に

※JPXの中期経営計画における重点分野として設定し、2022年4月にETF推進部を立ち上げ



# アセットクラス別のETF新規上場銘柄数の推移

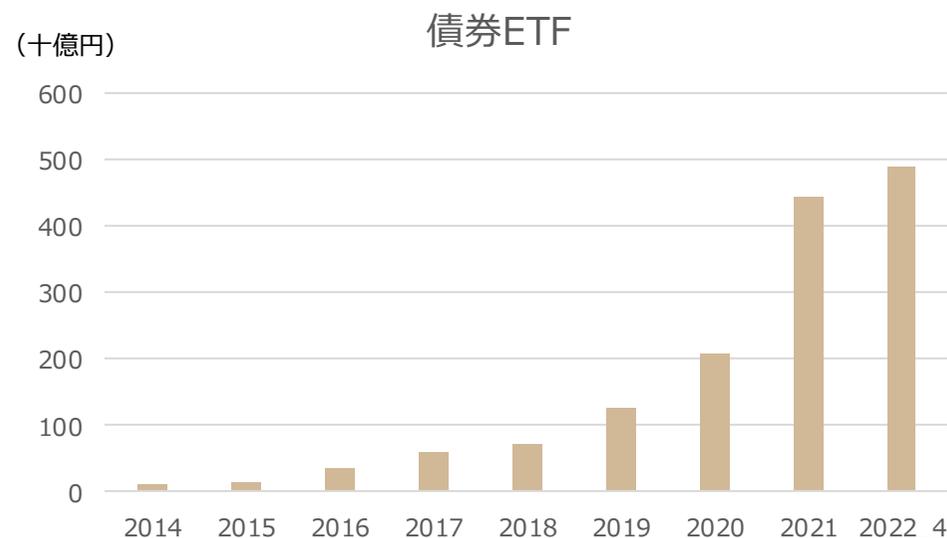
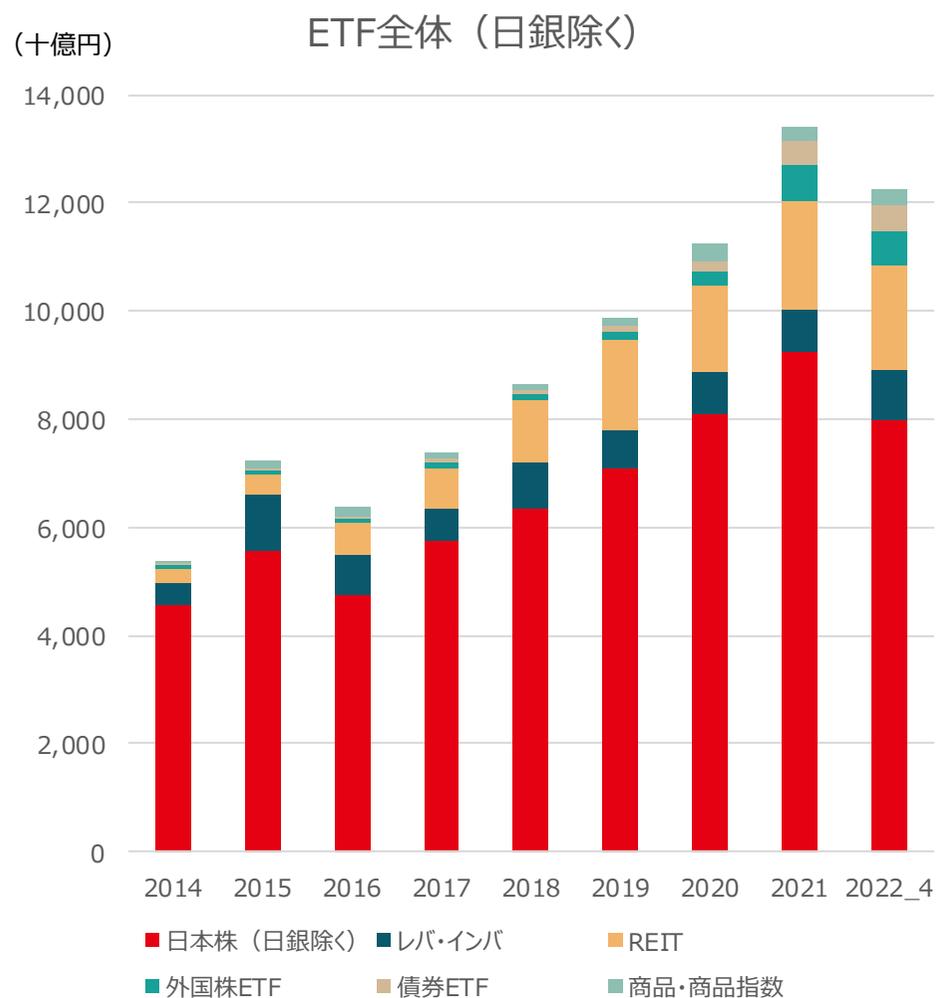
- 2022年5月時点で、263銘柄のETFが上場
- 足元では、外国株・外国債ETFの上場が続く
- ESGなどのテーマ型ETFの上場も活発



※ 2022年は5月25日時点上場分まで

# アセットクラス別の純資産額の推移

- 全体では60兆円程度で日銀保有分（推定）を除くと12兆円程度
- 全体的に増加が見られる中、特に外国株ETF・債券ETFの残高が急増

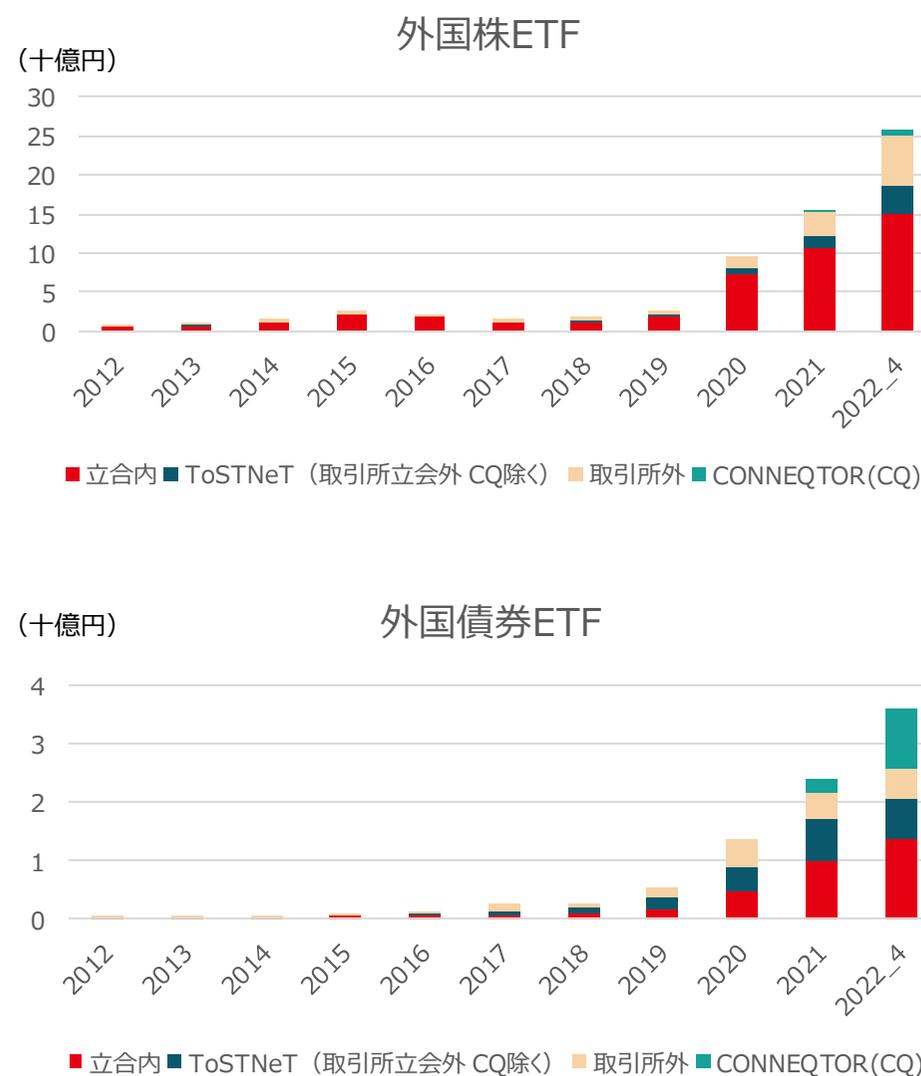


※日銀保有純資産額は日銀公表の買い入れ履歴から推定

※出典：Bloomberg、日銀

# アセットクラス別の日次売買高の推移

- 全体としてはレバレッジ・インバースの売買代金の割合が高い状況が続く
- 一方で、全体の割合はまだ低いですが、外国株ETF、外国債券ETFの売買は大きく増加



## 2 ETFの流動性供給に係る取り組み

---

# 東証におけるETFの流動性向上に対する取り組み

- 現在、マーケットメイカー12社が**187銘柄**、のべ649銘柄に流動性を供給

マーケットメイク制度  
-板への恒常的な  
気配提示

マーケットメイク制度

- ・ 2018年7月開始、**2020年、2021年に見直し**
- ・ レバインバを除く、全てのETFを対象
- ・ 恒常的な気配提示義務を設定し、低流動性銘柄を中心に流動性を引上げを図る
- ・ 提示サイズは500～3000万円

スポンサー制度

- ・ 運用会社が、気配提示義務・インセンティブともに上乗せ可能

マーケットメイク制度  
Ver.2.0

- ・ 2019年4月開始、**半年ごとに見直し**
- ・ 代表的な指数に連動する銘柄を「スター銘柄」に選定
- ・ 対象銘柄では常に1億円以上の気配が提示されているよう気配提示義務を設定



- 投資家が直接マーケットメイカーに気配提示を依頼するための仕組みも提供

RFQサービス  
-リクエスト型サービス

CONNEQTOR



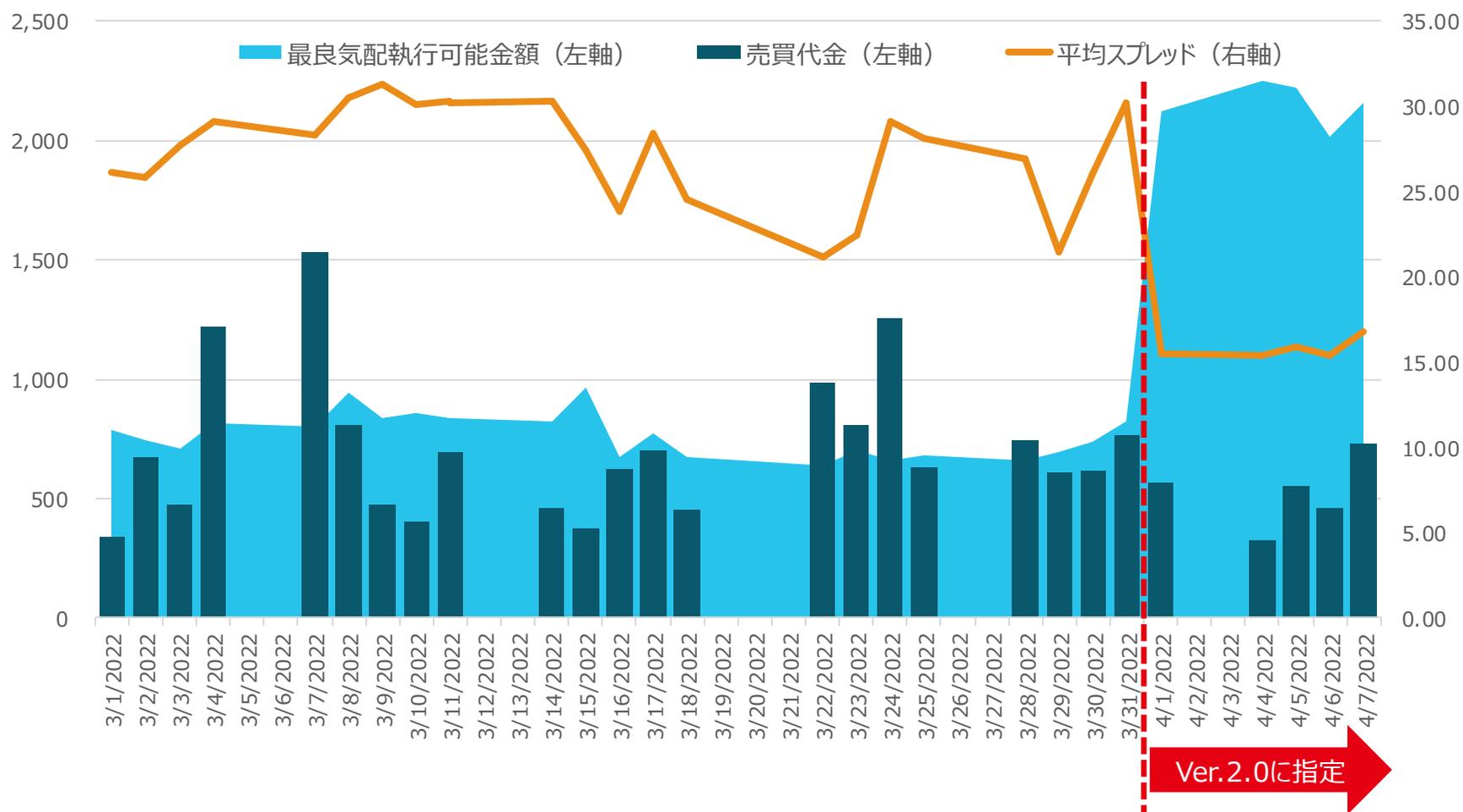
- ・ 2021年2月開始、**ほぼ毎月、新規機能をリリース**
- ・ 前身は2019年3月開始の「メールRFQ」
- ・ すべてのETFを対象
- ・ 電子プラットフォーム上で複数のマーケットメイカーに同時に気配提示を依頼可能

# 流動性の改善例【業種別ETFの板状況の変化】

## ● マーケットメイク制度Ver.2.0に指定して以降、板状況は明確に改善

- ✓ 平均スプレッドは縮小（30bps→16bps前後）
- ✓ 最良気配値段における気配提示数量は倍増（1,000万円弱→2,000万円超）

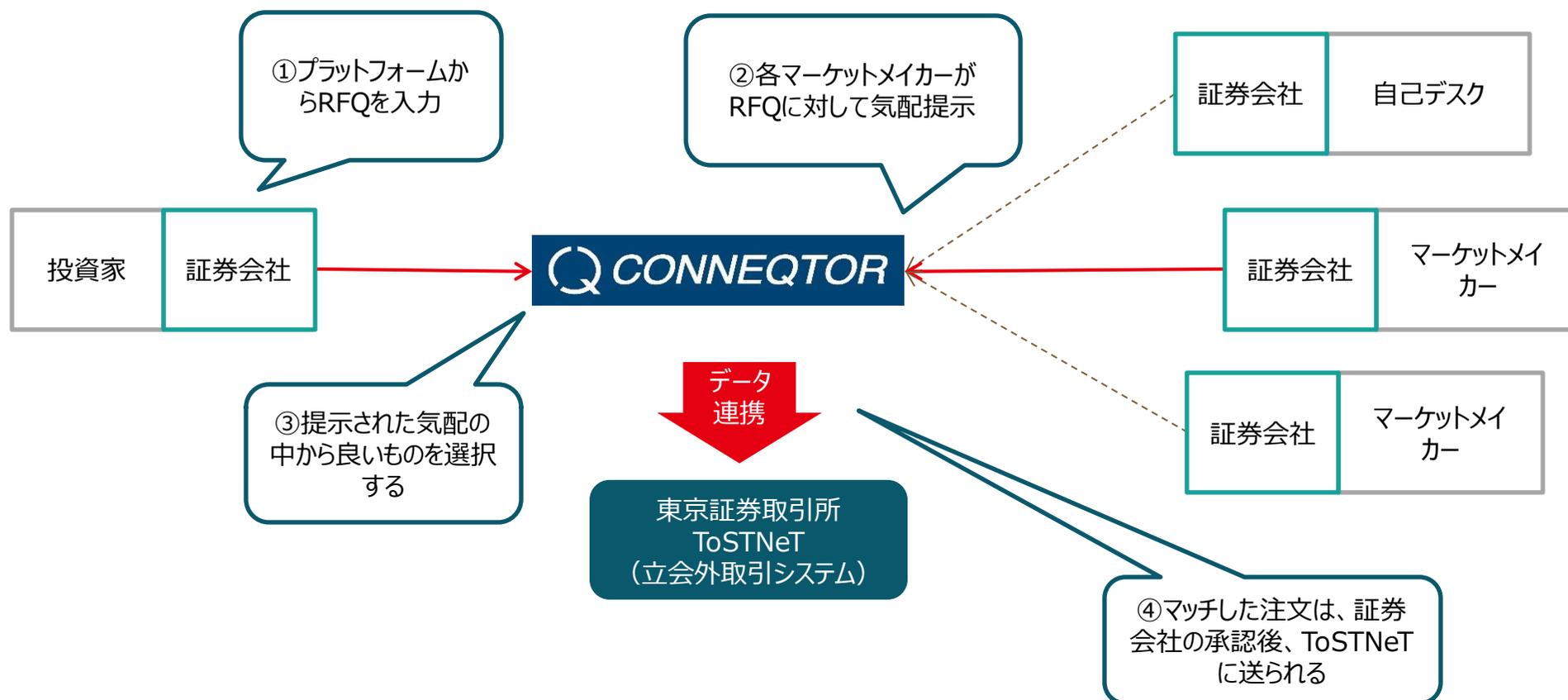
業種別ETFの気配提示状況（いずれも17銘柄の平均）の推移



Ver. 2.0に指定

※「最良気配執行可能金額」は、気配提示された数量のうち、最良値段のもののみを時間加重平均。そのため、最良以外の気配も含めると実際に執行可能な金額はこれより大きい

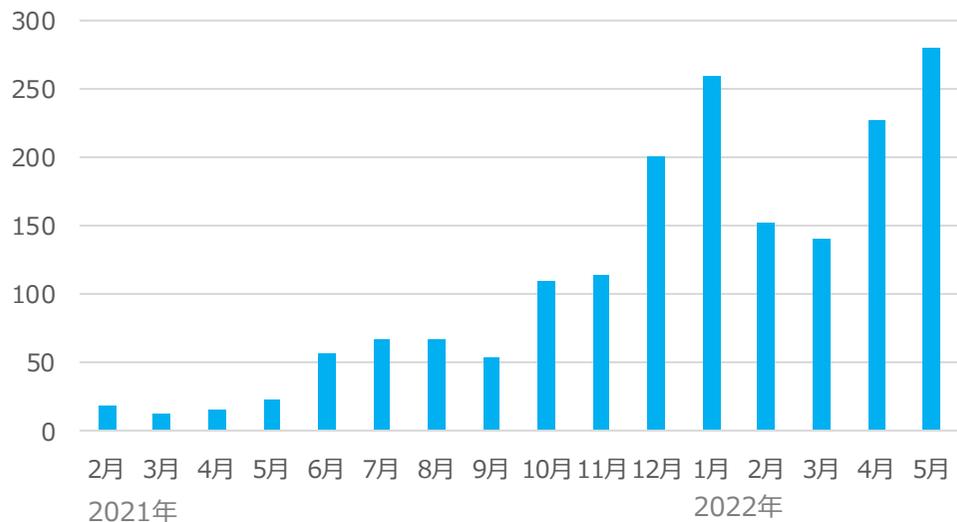
- ① 機関投資家は、CONNEQTOR上で、売買を希望する銘柄・数量等を入力
- ② 各マーケットメイカーはCONNEQTORを通じて、投資家に対する気配提示を実施
- ③ 投資家はマーケットメイカーから提示された気配を一覧し、選択
- ④ 双方が同意した場合には、自動的にToSTNeTの注文が作られ、発注される



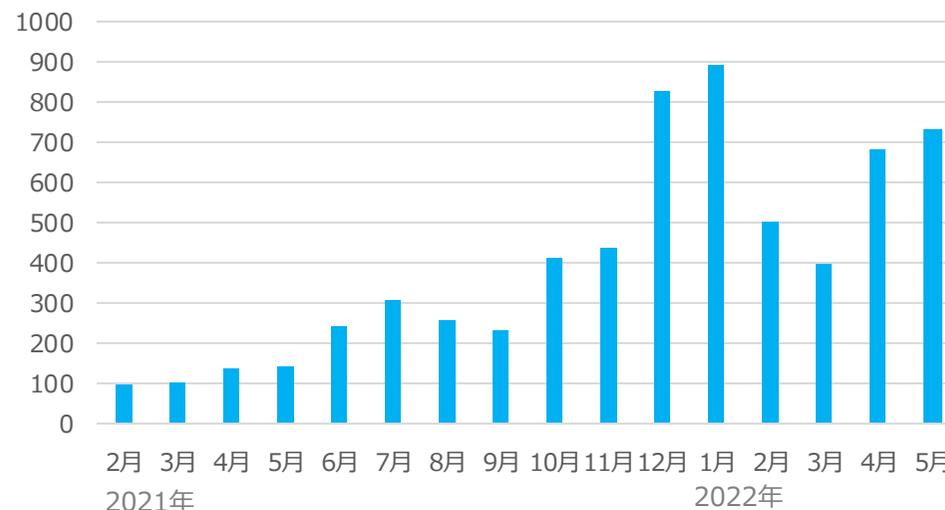
※CONNEQTORの自体の利用料は無料とし、CONNEQTOR経由でToSTNeTに発注した場合に、約定代金に応じた手数料を付加。

※投資家・マーケットメイカーの双方が同意していても、取引参加者のリスクチェック等により取引が不成立となる場合もある。

## 約定件数

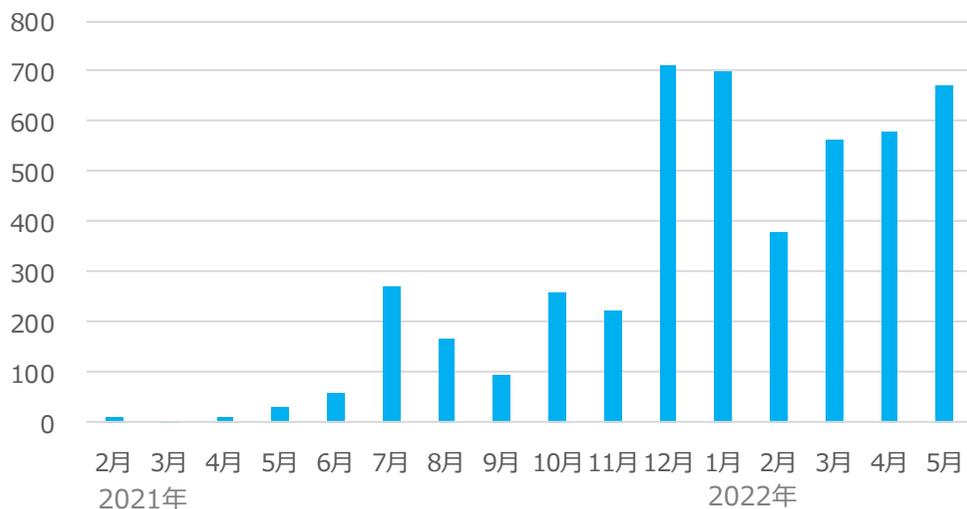


## RFQ件数



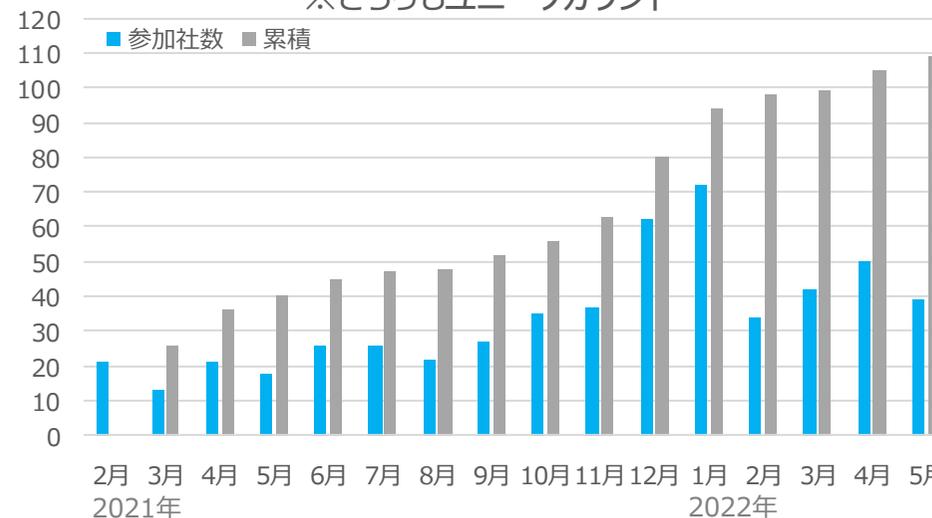
## 売買代金

(億円)



## 参加社数と累積参加社数

※どちらもユニークカウント



### 3 更なる発展に向けて

---



## ● 上場 ~ 売買 ~ 清算までETFのエコシステム全体の強化を目指す

### 上場

#### ● 指数連動要件の見直しの検討

債券、マルチアセット、ESG分野等において、インデックス運用でなくても魅力的な商品組成・上場できるようにするため、指数連動要件の見直しを検討

#### ● 商品ニーズの適時・適切な把握と商品組成への提案

投資家へのヒアリングを強化し、把握したニーズを商品化に繋げるための運用会社との連携強化

### 売買

#### ● MM制度の見直し

対象銘柄の継続的な見直し、及びマーケットメイカー数とカバー銘柄の増加

#### ● CONNECTORの機能改善

ユーザニーズの優先順位をつけながら順次開発を継続

### 清算

#### ● 設定・交換の円滑化

金銭設定型ETFの清算引受に関する検討



### 【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社東京証券取引所  
電話：03-3666-0141（代表）

### 【本資料に関する注意事項】

- 本資料は情報提供のみを目的としたものであり、投資勧誘や特定の証券会社との取引を推奨することを目的として作成されたものではありません。
- 万一、本資料に基づき被った損害があった場合にも、（株）東京証券取引所は責任を負いかねます。
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の完全性を保証しているものではありません。
- また、本資料は、ETF等について平易に解説・記述しておりますが、全ての内容を網羅したものではありません。
- 本資料に記載されている内容は将来予告なしに内容が変更される可能性があります。内容等について、過去の情報は実績であり、将来の成果を予想するものではありません。
- 資料には、講演者の個人的意見も含まれておりますので、全てが（株）東京証券取引所の公式見解ではありません。